

	項目	正常参考値	説明
肝機能	AST (GOT)	13~33 IU/L	肝臓、心臓、筋肉、赤血球などに多く含まれる酵素で、肝障害や心臓病、血液の病気などで高くなります。
	ALT (GPT)	(男)8~42IU/L (女)6~27IU/L	肝臓に多く含まれる酵素で、肝臓や胆道の病気が高くなります。
	ALP (アルカリフォスファターゼ)	115~359 IU/L	肝臓、胆道、骨などの病気が高くなります。成長期にある小児は高い値を示します。
	LDH	119~229 IU/L	体内の各臓器に広く存在する酵素で臓器の損傷の程度を見ることが出来ます。特に肝障害、心筋梗塞、悪性腫瘍、血液の病気などで高くなります。
	γ-GPT	10~47 IU/L	肝臓、胆道の病気や異常を示しアルコール性肝障害、薬物性肝障害などで高くなります。
腎機能	BUN (尿素チツソ)	8~20 mg/dl	腎臓の機能が低下すると高くなります。
	CRE (クレアチニン)	(男)0.6~1.1mg/dl (女)0.4~0.7mg/dl	腎臓の機能が低下すると高くなります。
	UA (尿酸)	2.5~6.9 mg/dl	痛風や腎臓の機能が低下すると高くなります。
心機能	CK	62~287 IU/L	心臓や骨格筋、脳などに多く含まれる酵素で、心筋梗塞などの心疾患や筋肉の病気が高くなります。
	BNP	0~18.4 pg/ml	心臓の状態を判断するための検査で、主に心不全で高くなります。
脂質	TC (総コレステロール)	128~219mg/dl	脂肪成分の一つで、血管を強化する物質として重要です。多すぎると動脈硬化などの生活習慣病の原因となります。
	HDL-C	40~96mg/dl	善玉コレステロールと呼ばれ、血管に付着したコレステロールを取り除き、動脈硬化を防ぎます。
	LDL-C	70~139mg/dl	悪玉コレステロールと呼ばれ、動脈硬化の直接的な危険因子です。
	TG (中性脂肪)	30~149mg/dl	脂肪成分の一つで、多すぎると動脈硬化の原因となります。食後に高くなります。
膵臓	AMY (アミラーゼ)	40~130 IU/L	膵臓や唾液腺から分泌される消化酵素で、膵臓や唾液腺の病気が高くなります。
糖代謝	空腹時血糖	60~119 mg/dl	血液中のブドウ糖濃度でエネルギーとして大切な栄養です。糖尿病の重要な指標の一つで、食事の影響を受けるので空腹時に検査をすることが多いです。
	HbA1c	4.6~6.2 %	過去1~2か月の平均的血糖値を反映し、高血糖状態が続くと高くなります。糖尿病の血糖値管理に有用です。
蛋白	CRP (C反応性蛋白)	0~0.4mg/dl	体に炎症があると高くなり、回復とともに低くなります。
	TP (総蛋白)	6.4~8.7g/dl	血液中の蛋白質の総量を表し、栄養状態や肝臓・腎臓の機能を見えています。
	ALB (アルブミン)	3.7~5.5 g/dl	肝臓で作られ全身の栄養状態の指標となる蛋白質です。肝臓の病気や腎機能の低下で低くなります。
鉄分	FE (鉄)	(男)60~180 μg/dl (女)50~170 μg/dl	全身に酸素を運ぶヘモグロビンの構成物質の一つです。出血や鉄欠乏性貧血で低くなります。

※ 表中の正常値は、あくまで診断の目安となるもので、数値が範囲を超えていてもそれがすぐに異常につながるものではありません。また、治療の目標値でもありませんので、目標となる検査値は病気や患者さまにより異なりますので担当医にご確認下さい。